

祝日本一!

伊藤直輝 投手(上関出身) 社会人野球日本選手権 ヤマハ(静岡)初優勝に貢献



▲優勝報告に訪れた伊藤直輝投手
11月11日 於：村長室

社会人野球の名門ヤマハに所属し、投手として活躍している伊藤直輝さんが、その年の社会人ナインバーワンチームを決める「第42回社会人野球日本選手権」に出場し、チームの初優勝に貢献しました。

今大会準決勝の大阪ガス(大阪)戦では、6回から継投し、相手打線に追加点を許さない好投で、チームを決勝進出に導きました。

伊藤投手は、日本文理高校から東北福祉大学に進みましたが、3年次に右肘の靭帯を部分断裂。ケガに苦しむ大学時代を経験し、ヤマハに入社。大学時代からのケガのリハビリに励んで迎えた入社3年目の今年、見事に復活を遂げました。

伊藤投手は、「まだ優勝の実感が湧いてこないが、目標にしていた日本一になれて嬉しい。来年は都市対抗野球でも優勝出来るように練習して、今度は優勝投手になりたい」と話してくれました。

日本文理高校を県勢初の準優勝に導いた2009年から7年、挫折を経験しながらも遂に日本一に輝いた伊藤投手。この活躍に村の野球関係者は、更なる舞台での姿に期待を募らせていました。



関川村農林業まつり

関川中がおもてなしコーナー出店

10月30日、村の農林物産を集めた「関川村農林業まつり」が、ふれあいどくむを会場に開催されました。

まつりでは、新鮮な野菜や山菜など秋の味覚がずらりと並び、6千人が訪れる大盛況となりました。また、よさこいや県吹奏楽コンクールに出場した中学4校合同吹奏楽部の演奏、鯉つかみどり大会や福まきも行われ、訪れた皆さんは秋のイベントを満喫しました。

鯉のつかみ取りに参加した小学4年生の田島彩江さん(村上市)は、「鯉の顔が怖かったけど、つかめて良かった。楽しい1日でした」と話してくれました。



今回新たにまつりを盛り上げたのは、関川中学校のもち米販売ともち米料理によるおもてなしコーナーでした。

今年度、関川中学校ではキャリア教育として郷土愛を育む学習に取り組み、5月にJAや地域の皆さんの協力を得て、もち米の田植えを行いました。農林業まつりに合わせ、収穫したもち米を使った料理を地域の皆さんに提供し、日ごろの感謝の気持ちを伝えました。

事前に講習を受けて準備したおもてなし料理の「おはぎ」「山菜おこわ」「しょうゆ団子」などは、あつという間になくなる大盛況でした。

もち米の販売をした齊藤日向さん(1年・下関)は、「笑顔で販売ができ、皆さんに喜んでもらえてうれしかった」と話してくれました。

なめこ採り体験を実施！

～ 緑の少年団小学4年生 ～

11月4日の放課後、緑の少年団員12名（小学4年生）が、秋の味覚であるなめこの収穫を体験しました。毎年4月になめこの駒打ち体験を行っていて、今年も30本程度行いました。

この日は、昨年までに駒打ちをしたものから発生したなめこを収穫。指導員から採取に関して「木を動かさないこと」、「根元から採ること」「なめこ以外のキノコは採らないこと」などの説明を受けた後、4班に分かれて収穫しました。

バケツいっぱい収穫した大島来騎くん（上野新）は「最初、失敗してカサの部分しか採れなかった。おじいちゃんが近くの山で作ってくれるから、たくさん食べている。なめこ汁が一番好き」と話していました。

収穫体験後には前もって収穫して下ごしらえされたものが配られ、みんな喜んでいました。



花と花木による癒しの村プロジェクト

～ 米沢街道地域づくり検討会 ～

米沢街道地域づくり検討会（米野紀男会長・上関）は、4年前から企画検討を進めてきた「花と花木による癒しの村プロジェクト」に11月10日着手しました。この構想は、えちごせきかわふるさとトンボ池（下川口河川公園）およびその周辺一帯に年間を通じ、花の咲く木や紅葉する木、昆虫の好む木を植える計画で、5～6年で600本の植樹を予定。

今回はその記念すべきスタートで、会員11名が集まり、トンボ池の東屋付近にサルスベリ72本の植樹と標柱の設置を行いました。

このプロジェクトを企画した佐藤勝利さん（大島）は、「この一帯を花木でいっぱいにして、大勢の人に来てもらえることを夢見てスタートした。無理をしないで時間をかけて、我々の時代には見ることが出来ないかもしれないが、後世のために進めていきたい」と話していました。



心の備えが大切！

大規模防災訓練実施

10月23日、水害を想定した村内一斉の大規模防災訓練が行われ、村民や消防団、自衛隊、消防署員など約1500人が参加しました。

村内一斉の防災訓練は隔年で行われ、今年が2回目。メイン会場を持ち回りで開催します。避難訓練では、荒川の水位が上昇し、内水氾濫の危険性が高まったとして水害を想定した訓練が行われ、避難勧告発令後、村指定の避難所6か所へ避難しました。

避難訓練終了後には、メイン会場の女川ふれあい自然の



家で防災訓練を実施。図上訓練や救命法講習などのほか、自衛隊と消防団女性部による炊き出し訓練も行われました。防災訓練終了後には、NPO法人地域活動サポートセンター柏崎の会田理恵子さんが「防災のこころ構え自主防災組織について」と題して講演。「心、家、家族、近所、地域の備えが大切。地域で顔の見える関係を作っておくことがいざ災害となった時に大切になる」と中越大地震や中越沖地震の体験を交え、災害に備える心構えについて話をしてくれました。

